

授 業 科目名	【Gカリキュラム】 西洋法制史 ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 特殊講義（西洋法史）	その他参照	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・地歴・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・地歴・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・地歴必修・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・地歴選択・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	ローマ法を軸に西洋法の歴史を理解する		担当者	塚原 義央		
授業概要	<p>【概要】</p> <p>この授業では主にローマ法を軸として、西洋法の歴史を概観する。日本法は明治期に西洋法、とりわけ大陸法の影響を受け成立したと言われる。そうした大陸法系の起源はローマ法であるが、古代ローマ人が作り上げた法は、ヨーロッパの各時代や地域において様々な形で用いられてきた。各歴史社会にはそれぞれに固有の法があることを踏まえつつ、社会的背景にも適宜目を向けながら法の歴史を振り返る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>わが国における法の基礎となった西洋の法とその社会の歴史の変遷の過程について、ローマ法を介して知ることを通じて現在のわれわれ自身の国家や社会、法や法制度のあり方についてより深く考えるきっかけを得る。また各時代や地域には固有の法があることを知ることによって、あらゆる物事を相対的に見る目を養う。</p>					
履修条件	高校で世界史を学んでいることが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>授業中に適宜、資料を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>ピーター・スタイン著（屋敷二郎・藤本幸二・関良徳 訳）『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房、2003年 勝田有恒、森征一、山内進 編著『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、2004年 ウルリッヒ・マンテ 著（田中実、瀧澤栄治 訳）『ローマ法の歴史』ミネルヴァ書房、2008年 勝田有恒、山内進 編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房、2008年</p>					
授業回数	授業内容					
1	イントロダクション：西洋法史という学問について		予習：「法制史」という言葉を法学の辞典で調べる。 復習：法制史という学問の性格について、整理する。			
2	古代ローマの法①：ローマ法の時代区分、ローマの社会規範及び法源		予習：事前配布プリントを読む。 復習：時代区分の在り方、及び法と他の社会規範との相違について整理する。			
3	古代ローマの法②：十二表法		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp5～9を読む。 復習：十二表法の成立過程及び意義について、整理する。			
4	古代ローマの法③：共和政期の法		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.9～18を読む。 復習：ローマの拡大に伴う万民法の発展について整理する。			
5	古代ローマの法④：帝政前期の法		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.18～28を読む。 復習：古典期法学の在り方について整理する。			
6	古代ローマの法⑤：帝政後期の法		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.28～42を読む。 復習：古典期後の法学の在り方について整理する。			
7	古代ローマの法⑥：ユスティニアヌス法典		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.42～49を読む。 復習：ユスティニアヌスの法典編纂事業の意義について整理する。			
8	中世の法①：ローマ法の復活～12世紀ルネサンスと大学		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.49～59を読む。 復習：法学史におけるボローニャ大学の意義について整理する。			
9	中世の法②：註釈学派と註解学派		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.59～96を読む。 復習：両学派の方法論の相違について整理する。			
10	中世の法③：人文主義法学		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.96～112を読む。 復習：人文主義法学が与えたインパクトについて整理する。			
11	近代の法①：ヨーロッパ各国におけるローマ法継受		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.112～141を読む。 復習：各国の継受の在り方について整理する。			
12	近代の法②：法典編纂運動		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.141～148を読む。 復習：各国における法典編纂にローマ法が与えた影響について整理する。			
13	近代の法③：サヴィニーと歴史法学派		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.148～152を読む。 復習：サヴィニーがその後の法学史に与えた影響について整理する。			
14	近代の法④：パンデクテン法学		予習：『ローマ法とヨーロッパ』pp.152～158を読む。 復習：パンデクテンとは何かについて整理する。			
15	学習到達度確認テストの実施、及びその解説		予習：これまでの学習内容を復習しておく。 復習：解説を踏まえて、これまでのポイントを整理する。			
評価方法	平常点(受講態度等)20%、学習到達度確認テスト80%の総合評価。					
評価基準	授業内容についてよく理解し、適切に表現できたものにはSまたはAを与える。内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はBまたはCとし、内容についての理解自体が不十分な者はDまたはEとする。到達確認度テスト欠席など評価不能な場合にはFとする。					
その他	※G 刈：法【選択必修(ス)】 刈 【選択必修(ス)】 情【選択必修(ス)】 / EF 刈：法【-】 刈 【-】 経【-】					